

令和3年度全国学力・学習状況調査の結果

学 校 名		長崎県立長崎東中学校
生 徒 数		114名
各 教 科 の 状 況		
国語	概 況	平均正答率は86%で、言葉に関する問題は理解度が高い。また、「話す・聞く」の領域も、話し合いの話題や方向性を捉える問題については高い正答率である。「書く」の領域では、文章に表れているものの見方や考え方を捉え、自分の考えをもつ問題について課題があった。
	改善策	今後は文学作品の人物の心情を捉えて説明し、それに対する自分の考えを記述する力を伸ばす必要がある。また、文章構成の基本を定着させ、文章を読み解いた内容について説明し合う活動を通して書く力を向上させる。
数学	概 況	平均正答率は86%で、既習内容はバランスよく身につけている。基本的な計算等の処理だけでなく、物事を数学的に捉え、特徴や相違点を文章で解答するような問題の正答率も高い。
	改善策	今後は数学の専門用語の意味をきちんと理解し、身につけた知識を身近な事象に活用できるようになることが必要である。また、解答の際に単に公式をあてはめるのではなく、なぜそう考えるのか、なぜそう処理するのか根拠をもって解くことを意識させる。
質問紙調査の状 況		<p>他人が困っているときは進んで助けようとしている、自分と異なる意見についても考えることは楽しいと回答している生徒は85%以上である。</p> <p>学校で ICT 機器を利用した意見交換は60%以上で、県や全国平均より高いため、今後も継続して使用頻度を高める。</p> <p>話し合い活動や総合的な学習における情報収集や分析もよく行い、県や全国の結果を上回っている。</p>

令和3年度全国学力・学習状況調査の結果

学 校 名	長崎県立佐世保北中学校	
生 徒 数	119名	
各 教 科 の 状 況		
国語	概 況 改善策	<p>平均正答率は84%であった。「話すこと・聞くこと」の領域においては正答率が高く、これまでの活動の成果が得られた。しかし、「書くこと」「読むこと」の2領域の他の領域と比較すると正答率が70%台であった。中でも、「読むこと」の「文章に表れているものの見方や考え方を捉え、自分の考えをもつ」問題の正答率が低く、無解答率も高かったため、課題が見られた。</p> <p>今後は、問題に取り組む姿勢や、文章の書き方や文法事項の基礎力を定着させ、自分の考えや適切な言葉で表現する力を育成していく必要がある。</p>
数学	概 況 改善策	<p>平均正答率は82%であった。数学的な技能を問う問題はよくできていた。一方、与えられた情報を的確に捉え、問題解決の方法や判断の理由を数学的に表現する問題においては無答の生徒もおり、正答率が低かった。今後は、文章をしっかりと読んで理解する力や、表やグラフから必要な情報を適切に読み取る力をつけるとともに、数学的な表現力を育成していく必要がある。</p>
質問紙調査の 状 況	<p>「自分の思っていることや感じていることをきちんと言葉で表すことができますか」に当てはまる、どちらかと言えば当てはまると答えた生徒の割合は79%、「家で自分で計画を立てて勉強をしていますか（学校の授業の予習や復習を含む）」に、よくしている、ときどきしていると答えた生徒の割合は66%であり、ともに県平均を上回っている。</p>	

令和3年度全国学力・学習状況調査の結果

学 校 名		長崎県立諫早高等学校附属中学校
生 徒 数		116名
各 教 科 の 状 況		
国語	概 況 改善策	概況としては、平均正答率が81%と全国や県の正答率を大きく上回っている。改善策としては、「文章に表れているものの見方や考え方を捉え、自分の考えをもつ」の正答率が30%と低いので、書く力を伸ばす取組を授業で実践したい。
数学	概 況 改善策	平均正答率は79%であり、全国や県の正答率を大きく上回っている。数量や図形などについての基本的内容は概ね理解しているようだが、事象を数学的に解釈し問題解決の方法を数学的に説明できていない生徒がいたので、改善に取り組みたい。
質問紙調査の 状 況		普段ゲームをする時間は、全国・県平均に比べかなり少ない傾向にあった。また休日に2時間以上学習している生徒の割合は全国・県平均を大きく上回っているが、平日は全国・県平均ともに下回っているので、各教科や家庭と協力しながら改善を図っていきたい。